# 伊野写真ニュース18号

2018,10,19
発行　伊野地区自治協会

## 案山子（かかし）が守る
# こだわりのはで干し米

▲中ノ手町内から伊野小学校を望む

50年前。9月～10月にかけて、道路脇には稲はでが立ち並んでいた。通学途中、自転車をこぎながら、稲はでから立ち上る香気を思いきり吸い込んでいた。さやいだ稲が発する香りが大好きだった子ども時代の原風景が蘇る。

はで干しにこだわる農家は数軒に減った。写真は山﨑敏美さんの稲はで。今年は、案山子（かかし）まで作った。鳥やイノシシ対策にどれだけの効果があったかは定かでないが、地域住民を楽しませてくれたことは確かだ。

案山子の場所が毎日変わる。格好も変わる。人間の目には人に映る。「山崎さんちの家族が増えたねえ」という声がたくさん聞こえてきた。

山﨑さんは産直市「伊野いち」の代表。今日、開催された「伊野いち」には400人余のお客様を迎え大盛況だった。「伊野いち」を始めて5年が経過したが、ますます勢いを増しているのは山﨑さんの情熱に共感する人が多いからだ。

（文　ちくりん酔狂）